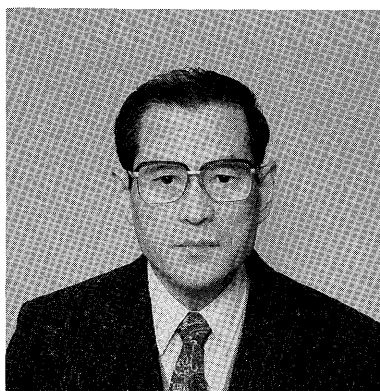
追悼

原　襄先生（1931—1998）
Professor Dr. Noboru Hara（1931—1998）

原　襄先生は1931年8月29日，東京に生まれ，1998年6月8日，川崎市の病院で亡くなりました．まだ66才という若さでした．ここ数年来短期の入退院を繰り返してはおられましたが，元気そうで，訃報に接したときは一同驚きと，深い悲しみに襲われました．

先生は1953年東京大学理学部生物学科（植物学）を卒業，同大学院に進まれ，小倉謙教授（修士課程），亘理俊次教授（博士課程）に師事されました．その後お茶の水女子大学助手，東京大学教養学部助手・助教授を経て1980年同学部教授に就任，1992年退官後は明星大学一般教育生物学教授を勤めてこられました．その間，日本植物学会の幹事長や編集委員長を，また日本植物形態学会の創設にも尽力され，1988年より1991年の間は学会長を歴任されました．

先生はツツジ科，オニシバリ，リョウブ，イチョウ，アオキなど比較的身近な材料を用い，一貫して「茎頂分裂組織と葉の初期発生」を基本テーマに研究を続けられました．学究としての先生は大変謹厳で御自分の研究領域を大切にされ，植物形態学の最も基本的と思われる細胞分裂と成長との接点の解析に多大の功績を残されました．先生の原著論文の大部分は『植物学雑誌』に発表され，一部は雑誌『Nature』にも掲載されています．著書としては『植物の形態』(1972)，『植物形態学』(1994) などがあり，大切な教科書として広く利用されています．『岩波生物学辞典』や，『文部省・学術用語集』などの分担執筆もされました．また先生は『植物の形ー茎・葉・根・花』(1981)，『植物観察入門』(1986 共著) などを通して植物の形態をやさしく語ることにもつとめられました．

私が先生にお会いしたのは1976年，初めて出席した富山での植物学会で，アオキの成長の様子を発表されているのを聞き，自分のヤマボウシそっくりだと思ったのがきっかけでした．以来すんなりと受け入れてくださり，20数年が経ちました．私の最近出た『木の見かた，楽しみかた』(朝日選書599) は原 襄先生を意識し，先生に校閲してもらおうと最初から決めていました．私のささやかな先生へのご恩返しのつもりでもありました．そしてよく勉強しているとほめてくださり，「私ももっと自由に（形態学にこだわらずに）自分の好きなことを進めておれば，きっと八田君の仕事に近いことをやったと思う」と話されました．

今年の3月28日横浜のお宅に伺い，最後の（本の校正の）ご厄介になりました．その際，以前から声をかけて下っていた共著書の構成について議論した後「途中で自分がいなくなったら，八田君が仕上げて欲しい．医学の進歩のお陰で，まだまだ三途の川をわたることはないと思うけど」と何気なく言われたのを今は寂しく思い出します．先生の訃報に接したのはタイ国出張の前日で，ご葬儀にも出られず心残りでした．出来あがった本が届いた時には，先生はすでにそれを喜んで下さる状態ではなかったと奥様に伺い，悔やまれました．心から先生のご冥福をお祈り致します．

（国立科学博物館筑波実験植物園　八田洋章）